

平成29年度案内

山梨大学教職大学院

大学院教育学研究科 教育実践創成専攻

21世紀の学校教育実践を切り拓く主体創成の場

「つながり」をつくる



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

山梨大学



山梨大学教職大学院は

(大学院教育学研究科教育実践創成専攻)

スクールリーダーの養成を目標としています。



現職教員院生を対象に

地域や学校において指導的・中核的な役割を果たすために不可欠な確かな指導理論と高度で優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの育成を目指します。

学部卒院生を対象に

実践的な指導力・展開力を備える新しい学校づくりの有力な担い手として、自ら積極的に取り組み、将来的にリーダーの役割を果たすことができる新任教員の養成を目指します。

充実した指導と特色ある科目

授業は少人数での演習、しかもケーススタディーで構成されるきわめて実践的な内容。ほぼすべての授業が研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチング

入学定員 14名 (現職教員院生:8名/学部卒院生:6名)

専任教員11名 研究者教員6名と実務家教員5名
(+兼任教員2名)

学部卒大学院生と既に教職経験のある大学院生および大学教員が共に「連携協力校」との地域協同に基づく学校・授業改善プロジェクトチームとして活動

実習は、地域の学校の課題に即した「連携協力校」における学校・授業改善プロジェクト実習

「学校改善分野」(学校経営・生徒指導・教育相談等)と「授業改善分野」を重視した特色ある科目



教職修士(専門職)の学位が2年間の課程で取得できます。専修免許状が取得できます。

従来の修士課程と異なり、修士論文は課しませんが、2年間にわたる「実習」(長期実践報告を含む)で実践性のレベルアップが図られます。

学部卒院生 修了後の歩み

学部卒院生のほぼ全員が、修了時に教員になって教壇に立っています。

現職教員院生 修了後の歩み

各勤務校において研究課題に関連する校務分掌(教務、研究等)で主任等になっています。山梨県総合教育センターの主幹・指導主事として活躍している修了生もいます。

教員紹介 (H29.4現在)

授業担当者 (50音順)

専任教員

猪股 真弥

准教授(中学校・数学科教育)



山梨県の公立中学校教諭(数学科担当)、山梨県教育庁義務教育課指導主事(生徒指導担当)を経て現職。専門分野は数学科教育。主な担当科目は、「授業研究マネジメント論」、「理数学習教材開発論」、「授業創造の心理学」など。

氏原 一宏

客員教授(中学校・英語科教育)



元公立中学校教員、担当教科は英語。小中3校の校長を経て退職。教諭時代は研究主任、生徒指導主事、学年主任、教務主任を経験。義務教育課指導主事として小学校外国語活動、英語教員資質向上研修等を担当した。

岡田 正志

客員教授(小学校・全科 算数科教育)



元公立小学校教員・教頭、中学校教頭、附属小学校副校長、公立小学校2校の校長を経て退職。県下の算数科授業実践に共同研究者として携わった。附属小学校では、教員、管理職として研究実証、教育実習、現職教育を行った。専門分野は算数科教育。

鴨川 明子

准教授(比較教育学)



東南アジアの教育制度・政策研究と高校生のキャリア形成に関する調査やフィールドワークに従事。主な著書は『マレーシア青年期女性の進路形成』(単著)『アジアを学ぶー海外調査研究の手法ー』(単編著)『理工系学生のための日本語表現法』(共編著)。

窪島 紀人

客員教授(高校・社会科教育)



県立高校教員(教科は地歴・公民)、教頭、県教委社会教育課主幹(成人・家庭教育、地域教育の分野を担当)、2校の高校校長を経て退職。2年前より現職。担当科目は「現代学校論」「現代教員論」「学校改善論」など。

小林 大

教授(中学校・国語科教育)



神奈川県及び山梨県の公立中学校教諭、山梨県教育庁義務教育課指導主事、県内公立中学校教頭を経て現職。専門分野は国語科教育。主な担当科目は、「カリキュラムの見方考え方」、「子どもエンパワーメント論」、「言語学習開発論」など。

東海林麗香

准教授(教育心理学)



教育現場におけるナラティブ(語り)に関心を持ち、インタビューやフィールドワークを行っている。主な著書は、『「主観性を科学化する」質的研究法入門』(共著)、『コミュニティ臨床への招待 つながりの中での心理臨床』(共著)など。

長瀬 慶来

教授(言語学・言語習得論)



英語の音声学・音韻論研究および第二言語としての英語の習得(初等英語教育)の研究に従事。主な著作は、『小学生からの英語絵辞典』『英語音声学の基礎』『英語のイントネーション』等。

学校改善・授業改善を重視したカリキュラム

実習I(課題発見実習)・実習II(課題達成実習)

学校・授業改善プロジェクト実習(10単位)

課題研究I・II・III

学校・授業改善プロジェクト会議(6単位)

教育実践演習

山梨の学校改革

学校教員評価論

教育実践フィールドワーク論

言語学習開発論

理数学習教材開発論

理数学力評価論

教科教育特論*

インクルーシブ教育特論

発展科目(6単位:9科目中3科目選択)

学校危機管理論

科学的リテラシー教育革新論

独自共通科目(4単位)

学校教育と教員の在り方に関する領域

学校経営及び学校経営に関する領域

生徒指導及び教育相談に関する領域

教科等の実践的な指導法に関する領域

教育課程の編成及び実施に関する領域

現代学校論

現代教員論

学校組織経営論

学校改善論

子ども援助の実践的課題

子どもエンパワーメント論

授業研究マネジメント論

授業創造の心理学

カリキュラムの見方考え方

カリキュラムのマネジメント

共通基礎科目(20単位)

※各教科別に教科教育の演習を選択できます。

服部 一秀

教授(社会科教育学)



社会系教科のカリキュラムや授業に関する研究。近年の著書として、『現代ドイツ社会系教科課程改革研究ー社会科の境界画定』(単著)、『新社会科教育学ハンドブック』(共著)、『社会系教科教育研究のアプローチ』(共著)など。H29年度専攻長

古家 貴雄

教授(英語科教育学)



英語科に関する語彙の習得研究や英語の教員養成や教師認知に関する研究。英語教師が英語の授業をどのような観点や視点で分析するのが最近の専らの研究テーマ。近著として、『新しい英語科授業の実践』(共著)、『英語対訳で読む科学の疑問』(監訳)。

客員教員

仙洞田篤男 客員教授
(小学校・全科 社会科教育)

兼任教員

清水 宏幸 准教授
(数学教育学)

平井貴美代 教授
(学校経営学・教育経営学)

※詳しくは山梨大学研究者総覧
<http://nerdb-re.yamanashi.ac.jp/>
をご覧ください。

山梨大学研究者総覧

検索

修学支援制度

- ① 学部卒院生に対し、一定の条件を満たす場合、「山梨大学大学院学術研究奨励金」などの修学支援制度があります。
- ② 現職教員院生には、入学金相当額の半額を年一回支給する「山梨大学教職大学院学術研究奨励金」制度があります。

※修学支援制度の詳細については、教育学域支援課 教職大学院担当に、ご相談ください。

教職大学院の1年間

学修環境の充実

教職大学院生のための院生研究室が整備されているほか、院生には一人一台パソコンが貸与されています。



ガイダンス

授業開始

4月

実習開始
(開始時期は一例です)

5月



実習開始

6月

授業開始



集中講義

ホーム
カミング
デイ

8月



ホームカミングデイ

9月

教育実践フォーラム



10月

教育実践
フォーラム

11月

研究授業
(時期は一例です)

研究授業



12月

集中講義

1月

実習終了
(終了時期は一例です)

学位記授与式



2月

教育実践
フォーラム
(院生の研究成果発表)

3月

学位記授与式

ストレート
マスター
(学部卒院生)
野木 紹吾

魅力的な環境
での学び

講義や実習を通して校種・専門の枠を越え学び合うことができる魅力的な環境があります。

私の専門は中学校英語科ですが、中学校での実習では英語の授業実践をするだけでなく国語の授業を参観する機会がありました。加えて、小学校外国語活動を参観する機会や、講義で高校英語科現職の先生と学ぶ機会もありました。幅広い視野からの学びが専門に良い影響を与えた実感します。実践的な講義内容や現職の先生方との交流は学部卒院生にとって貴重な経験です。

私は在学1年目に山梨県の教員採用試験に合格することができました。採用候補者名簿登載期間を延長していただくことができていたので、残り1年でさらに実践力を身につけていきます。

連携協力校のニーズに即した実習

《学校・授業改善プロジェクト実習》では、学校・授業改善に資するべく策定された課題解決的協同実践プログラムを、連携協力校において実践することを内容とします。

具体的には…

学校改善に関心がある場合は

学校運営に関する観察や実態調査・ニーズ調査、教育相談、生徒指導、学校・教員評価に関する実践研究など。

授業改善に関心がある場合は

連携協力校に即した教材開発、カリキュラム開発、授業実践評価、授業研究、授業力の向上を目指した校内研修会の企画と実施、T・Tへの協力など。

修了生の声



現職教員（平成28年度修了）
山梨県立甲府東高等学校
地歴科教諭

窪田 幸彦

学び続ける

教職大学院では、
学びとは、知の魅力
とは何か、など様々

な「問い」を思考し、その思考を院生や先生方と共有し、さらに実習を通じて実践し、自らの考えを深化させることができました。「問い」の楽しさにふれたことが自らの課題とつながり、課題研究では問いに基づく授業方略について研究しました。

大学院を修了した現在は、日々の教育実践を振り返り、そこから「問い」をみつけ、探究していくことが生徒や自己の成長につながると信じ、授業、HR活動、学校運営に携わるようになりました。生徒とともに学び続ける教師でありたいと思います。



ストレートマスター
（平成27年度修了）
昭和町立西条小学校
教諭

上條 俊之

学びの楽しさを感じた日々

教職大学院での二年間を振り返ると、一日いちにちが濃く充実した日々でした。

私はストレートマスターという立場で所属し、現職・大学院・実習校の先生方、そして子ども達から多くのことを学びました。

特に印象に残っていることは、先生方の学びに対する熱量です。気になったことに対しては、どんどん自分から飛び込んで、深め、共有していく。学びを自分だけのもの終わらせず、他者に広げつなげていく姿勢には、教師としての温かさ・広さ・柔らかさを感じました。今ではそんな先生方の姿を見習い、子どもと語り合う時間、学び合う時間を大切に過ごしています。

実習Ⅱ

平成28年度 課題研究テーマ



イメージキャラクター
梨子ちゃん
大福くん

- 単元を貫く問いに基づく高校世界史授業
- 知識の意味を実感できる高校化学授業
- 児童の人間関係の深化を促す試み
- 算数科における思考力・表現力を高める指導の在り方
- 問いを基軸とした探究的教授による高等学校地理授業
- 科学的な思考・表現を育てるOPPシート活用の研究
- 苦手意識がある児童が楽しんで書くことができる授業の手立て
- 児童が互いの考えをつなげる授業づくり
- 生徒の歴史的思考力を育成する高校世界史授業のあり方
- 古典の学習における「創作」の要素を取り入れた言語活動の試み
- 初等理科授業における観察・実験をより効果的にする「予想」の充実
- 算数科授業における思考を促す手立て
- 中学理科における学ぶ意欲を高める授業づくり
- しなやかな心の育て方
- 中学校数学における主体的に学ぶ生徒を育てる授業の在り方

連携協力校

小学校[25校]

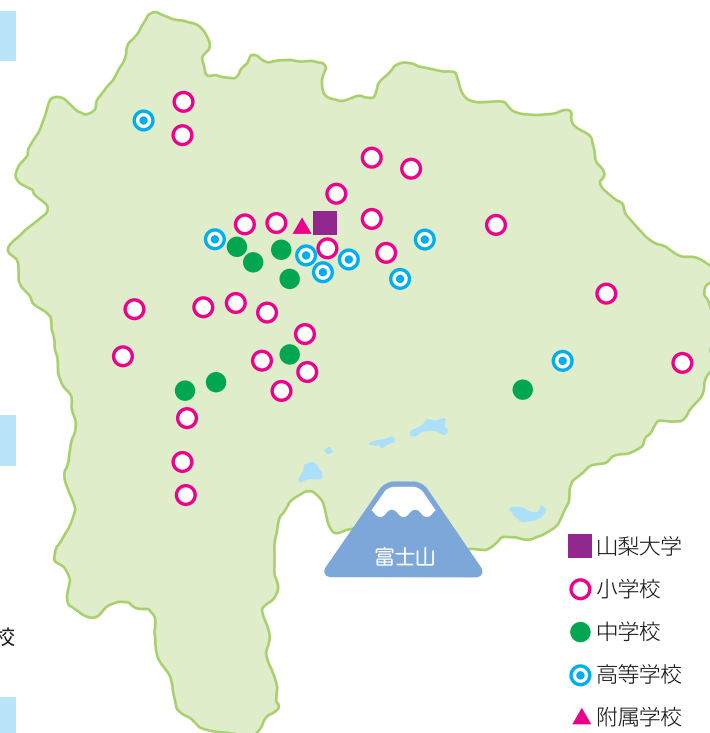
- 甲府市立新細屋小学校
- 甲府市立国母小学校
- 甲府市立池田小学校
- 甲府市立千代田小学校
- 南アルプス市立小笠原小学校
- 南アルプス市立大明小学校
- 甲斐市立竜王小学校
- 甲斐市立竜王西小学校
- 甲斐市立竜王東小学校
- 中央市立三村小学校
- 中央市立田富小学校
- 中央市立田富北小学校
- 中央市立田富南小学校
- 中央市立豊富小学校
- 昭和町立押原小学校
- 北杜市立高根東小学校
- 北杜市立長坂小学校
- 山梨市立日下部小学校
- 甲州市立松里小学校
- 甲州市立菱山小学校
- 富士川町立増穂小学校
- 富士川町立鯉沢小学校
- 身延町立身延清陵小学校
- 大月市立七保小学校
- 上野原市立秋山小学校

中学校[8校]

- 甲府市立北中学校
- 甲府市立南西中学校
- 甲府市立北東中学校
- 甲斐市立竜王北中学校
- 中央市立玉穂中学校
- 市川三郷町立三珠中学校
- 富士川町立増穂中学校
- 西桂町立西桂中学校

高等学校[8校]

- 山梨県立韮崎高等学校
- 山梨県立甲府第一高等学校
- 山梨県立甲府東高等学校
- 山梨県立甲府城西高等学校
- 山梨県立日川高等学校
- 山梨県立塩山高等学校
- 山梨県立都留興譲館高等学校
- 北杜市立甲陵高等学校



- 山梨大学
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- ▲ 附属学校

山梨大学教育学部附属学校園[4校園]

- 附属小学校
- 附属中学校
- 附属特別支援学校
- 附属幼稚園

こんな実習に取り組みます



甲府市立国母小学校
校長 荻原 桂

連携協力校の魅力と役割

教職大学院の連携協力校は次の三つの魅力があります。①ストレートマスターや現職の院生が年間200時間実習に来校する。②それに伴い大学院の先生方も来校する。③各校の校内研に関して大学院の先生方から指導をいただくことができる。院生の来校は子どもたちの成長に寄与するとともに在籍する先生方の刺激になります。また高い専門性をもつ大学院の先生方から様々な指導を受けることは校内研をはじめ学校の活性化につながります。連携協力校は教職大学院とウインウインの関係をもち連携を継続していくことが大切だと思います。



現職教員(院生)
(中学校・英語科)
清水貴美子

外国語活動を通じた小中連携

これまでの自分自身を見つめなおし、英語の教師としてこれから何ができるのかを考え、実践できる力をつけたいと教職大学院を志しました。小学校で英語が教科化されることになり、よりいっそう小中連携が必要となると言われています。実習を通じて外国語活動の実態を知り、地域の実状に合った小中連携を模索できればと考えています。教職大学院で、広い視野を持ち、どんな理論に基づいて実践していけばよいのか学べることに期待でいっぱい。貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様への感謝の気持ちを常に持ちながら、教職大学院での実習に取り組んでいきたいと思っています。



問い合わせ先: 本教職大学院について、詳しくお知りになりたい方は下記担当にお気軽にお問い合わせください。

国立大学法人 **山梨大学**

〒400-8510 山梨県甲府市武田4丁目4-37

教職大学院 TEL.055-220-8107 教育学域支援課(教職大学院担当)
http://www.edu.yamanashi.ac.jp/modules/kyoshoku_top/

山梨大学教職大学院

入試について <http://www.yamanashi.ac.jp/admission>

山梨大学教職大学院 入試情報